

平成29年度  
年度計画の実施状況に係る  
自己点検評価書

平成30年6月  
国立大学法人金沢大学

## 〈目 次〉

### 教育研究等の質の向上の状況

I. 大学の教育研究等の質の向上に関する目標	1
1. 教育に関する目標	1
2. 研究に関する目標	6
3. 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	11
4. その他の目標	12

### 業務運営・財務内容等の状況

II. 業務運営の改善及び効率化に関する目標	19
III. 財務内容の改善に関する目標	23
IV. 自己点検・評価及び当該状況に係る情報提供に関する目標	26
V. その他の業務運営に関する重要目標	28

## 〈進捗状況〉

- IV：年度計画を上回って実施している
- III：年度計画を十分に実施している
- II：年度計画を十分には実施していない
- I：年度計画を実施していない

平成 29 年度 年度計画実施状況報告 一覧表 (取りまとめ部局)

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標  
 1 教育に関する目標  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期 目標	【1】主体性を涵養する教育により、学士課程においては、専門分野における確かな基礎学力と総合的視野を身に付け、国際性と地域への視点を兼ね備えた人材を育成するとともに、大学院課程においては、高度な専門的知識・技能と学際性を兼ね備え、国際的視野を有する研究者及び専門職業人等、グローバル化する社会を積極的にリードする人材を育成する。
----------	---

中期計画	29 年度 年度計画	評価結果	判断理由
<p>【1-1】                      共通（教養）教育においては、新たに創設する国際基幹教育院を中心に、第2期中期目標期間に策定した金沢大学&lt;グローバル&gt;スタンダード（KUGS）に基づき、グローバル社会で活躍するための基盤となる能力を身につけさせるため、総合科目やテーマ別科目、一般科目を再編・集約した 30 のグローバルスタンダード科目（GS 科目）を中心とする体系的なカリキュラムを実施する。【戦略性が高く意欲的な計画】</p>	<p>①                      共通教育グローバル・スタンダード科目を開講するとともに、同科目のテキストや教材を充実させる。</p>	III	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。                      ・全ての GS 科目を開講した。                      ・GS 科目のテキスト・教材について作成及び改訂を進めるとともにウェブサイトに掲載し公開した。</p>
<p>【1-2】                      学士課程の専門教育においては、第2期中期目標期間において策定した金沢大学&lt;グローバル&gt;スタンダード（KUGS）を踏まえ一体的に見直した各学類のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに基づき、主体的・自律的な深い学びにより、グローバル社会の変化に対応できる高度な知識・技能を修得させるため、全ての講義科目においてアクティブ・ラーニングを導入する等、教育方法の改善を行う。</p>	<p>①                      学士課程の専門教育において、講義科目へのアクティブ・ラーニングの導入を推進するとともに、学域グローバル・スタンダード科目を開講する。</p>	III	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。                      ・パイロット授業を授業カタログとして 50 科目を学内公開するとともに、アクティブ・ラーニングに関する研修を 30 回実施する等により、アクティブ・ラーニングの導入を推進した。                      ・学域GS 科目について、計 33 科目開講し、延べ 3,533 名の学生が受講した。</p>
<p>【1-3】                      大学院課程において、第2期中期目標期間において策定した金沢大学&lt;グローバル&gt;スタンダード</p>	<p>①                      大学院課程において、授業科目の英語化を推進するとともに、英語で行われる授業科目の履修のみで学位を取得でき</p>	III	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。                      ・大学院 GS 科目「研究者倫理」を全研究科（博士</p>

<p>(KUGS)を踏まえ一体的に見直した各研究科のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに基づき、英語で行われる授業科目の履修のみで学位を取得できる教育プログラムの導入や留学・海外インターンシップの拡大等、グローバルマインドを持ち、専門知識と課題探究能力を有する高度専門人材を育成するための教育改革を実施する。【戦略性が高く意欲的な計画】</p>	<p>る教育プログラムを順次設置する。</p>		<p>前期・修士課程)において必修科目として新たに開講し、英語による授業を行った。          ・英語で行われる授業科目の履修のみで学位を取得できる教育プログラムについて、35の教育プログラム(29コース)を開設し、171名の学生が在学している。</p>
	<p>②          大学院グローバル・スタンダード科目を導入するとともに、海外派遣プログラムを策定し、大学院生の海外派遣を推進する。</p>	<p>III</p>	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。          ・大学院GS科目を新設し、各研究科において、博士前期課程・修士課程では、「研究者倫理」及び各研究科で設けた科目を、博士後期課程・博士課程では、「研究者として自立するために」を開講した。          (研究者倫理552名、研究者として自立するために146名が受講。)          ・自然科学研究科のプログラムとして、大学院生を対象とした7つの海外派遣プログラムを策定し実施するとともに、海外派遣の単位化制度を整備により、65名の大学院生を海外に派遣した。</p>

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(2) 教育の実施体制等に関する目標

中期目標	【2】 学士課程における先導的な教育実施体制である学域学類制の深化を図るとともに、大学院課程における分野融合型教育を推進するための教育実施体制を整備する。
------	---

中期計画	29年度 年度計画	評価結果	判断理由
<p>【2-1】 学域学類制の深化を図るため、ミッションの再定義等を踏まえ、学類における既存のコースを見直し、多様化・高度化する社会の教育ニーズに対応したコース等への再編や教育カリキュラムの改善等に取り組む。</p>	<p>① 人間社会学域及び理工学域において、学類やコース等の再編に向けた準備を行う。</p>	III	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人間社会学域においては、平成 30 年 4 月の経済学類及び地域創造学類におけるコースの再編に向け、カリキュラム体系の構築を完了し、関係規程の整備等を実施した。</li> <li>理工学域においては、平成 30 年 4 月の機械工学類、フロンティア工学類、電子情報通信学類、地球社会基盤学類、生命理工学類の 5 学類への再編に向け、設置手続きを終えるとともに、カリキュラム体系の構築を完了し、関係規程の整備等を実施した。</li> </ul>
<p>【2-2】 大学院において、第 2 期中期目標期間において創設した新学術創成研究機構における新興分野・分野融合型研究等を基に、分野融合型の新たな教育を実践するための教育組織、教育カリキュラムを整備する。【戦略性が高く意欲的な計画】</p>	<p>① 先進予防医学研究科（博士課程）において分野融合型教育を推進するとともに、新興分野・分野融合型研究等を基にした北陸先端科学技術大学院大学との共同大学院の設置に向けた準備を行う。</p>	III	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先進予防医学研究科において、「オミクス解析領域」、「情報医工学領域」及び「マクロ環境領域」の授業科目を開講するとともに、課題研究等の研究支援科目において、本学の主指導教員、千葉大学及び長崎大学の副指導教員の計 3 名の複数指導教員体制により、それぞれの大学の研究上の強みを生かした研究指導を行った。</li> <li>平成 30 年 4 月の北陸先端科学技術大学院大学との共同大学院設置（新学術創成研究科融合科学共同専攻）に向けて、設置手続きを完了し、加えて同専攻学生向けの奨学金制度を創設した。</li> </ul>

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(3) 学生への支援に関する目標

中期目標	【3】 入学から卒業までの徹底した学生支援を行う。
------	---------------------------

中期計画	29年度 年度計画	評価結果	判断理由
<p>【3-1】 第2期中期目標期間において整備した学生支援体制を更に発展させ、新たに学生生活支援の総合窓口を設置し、各種学生支援のワンストップ・サービスを実施する。</p>	<p>① 入学、学修、就職及び障がいのある学生に対する支援部門からなる、学生支援総合窓口であるスチューデント・バックアップ・センター（仮称）を設置する。</p>	III	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・学修支援、キャリア形成支援・ヘルスケア支援・障がい学生支援・性的マイノリティ支援等の各種学生支援を行うKUGSサポートネットワークを平成30年3月9日付で設置した。</p>
<p>【3-2】 第2期中期目標期間において整備した自学自習を推進するための学内体制を更に発展させ、アクティブ・ラーニング・アドバイザーを160人程度にまで拡充し、学修支援を展開する。</p>	<p>① 授業時間内外におけるグループ学習の支援や自学自習の支援等、アクティブ・ラーニング・アドバイザーによる学修支援を展開する。</p>	III	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・アクティブ・ラーニング・アドバイザーを333人採用し、ワークショップにおけるデータ分析の際の適切な方法等に係る助言等、グループ学習支援や自学自習の支援を行った。</p>

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(4) 入学者選抜に関する目標

中期  
目標

【4】学域学類制に応じた入試制度改革を行う。

中期計画	29年度 年度計画	評価結果	判断理由
【4-1】 KUGS が目指す人材像に応じた優れた資質・能力・意欲を備えた学生を確保するため、英語外部試験の活用の拡大や「文系一括、理系一括」入試の導入等、入学者選抜方法を改善する。【戦略性が高く意欲的な計画】	① 「文系後期一括、理系後期一括」入試等、新たな入試を実施するとともに、学生の主体性、多様性、協働性等を評価する「KUGS特別入試」の導入等、入学者選抜方法の改善に向けた検討を行う。	IV	以下のことから「年度計画を上回って実施している」と判断する。 ・平成 30 年度入試から、文系後期一括、理系後期一括入試及び理工 3 学類前期一括入試を実施した。 ・高大接続ラウンドテーブルを開催し、高大接続のあり方について議論した。 ・これらに加え、「KUGS 特別入試」及び「超然特別入試」の導入に向け検討を行い、実施概要（案）を作成したことから、年度計画を上回って実施した。

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標  
 2 研究に関する目標  
 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

中期目標 【5】 先進的・独創的な研究を推進するとともに、多様な基礎研究を充実する。

中期計画	29年度 年度計画	評価結果	判断理由
<p>【5-1】            第2期中期目標期間において本学が独自に策定した研究総合戦略等に基づき、がんの転移・薬剤耐性機構に関する研究や栄養が関連する疾患を克服するための先進医療開発、革新的原子間力顕微鏡技術等を使ったナノテクノロジー、文化資源学、超分子による革新的マテリアル開発等、強み・特色のある研究を学内 COE 制度(超然・先魁プロジェクト)等により、組織的・重点的に推し進める。</p>	<p>①            本学が独自に策定した研究総合戦略等に基づき、学内 COE 制度等により、強み・特色のある研究を組織的に推進する。</p>	IV	<p>以下のことから「年度計画を上回って実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 29 年度の戦略的研究推進プログラムにおいて、超然プロジェクト5件、先魁プロジェクト4件の財政支援を行った。</li> <li>先魁プロジェクトについて、新たな制度設計を検討し、募集対象や応募要件、支援額等を変更するとともに、「先魁プロジェクト 2018」と名称を変更した上で、平成 30 年4月の採択及び支援開始に向け、募集及び審査を実施した。</li> <li>これらに加え、強み・特色のある AFM 技術、超分子、がん研究を融合・発展させ、新たな学問領域「ナノプローブ生命科学」の創成を目指すナノ生命科学研究所構想が、「平成 29 年度文部科学省世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI 事業)」に採択されたことから、「年度計画を上回って実施した」と判断する。</li> </ul>
<p>【5-2】            社会や学術の動向を踏まえ、第2期中期目標期間に創設した新学術創成研究機構を中心に、がん進展制御研究や革新的統合バイオ研究、未来社会創造研究等をテーマとした、分野融合型研究を実施する。  <b>【戦略性が高く意欲的な計画】</b></p>	<p>①            新学術創成研究機構において、学内外の研究者とのセミナー開催等を通じ、分野融合型研究を推進する。</p>	IV	<p>以下のことから「年度計画を上回って実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ユニット・コアを越えた異分野融合研究を見据えた連携を着実に進展させるため、研究部門・研究コア・研究ユニットにおけるミッション・戦略を再策定するとともに、学内外の研究者とのセミナー等を開催した。</li> </ul>



			<ul style="list-style-type: none"> <li>・11 のプロジェクトに対し研究費助成を行い、ユニット・コアを跨いだ複数のユニットによる異分野融合研究を推進した。</li> <li>・これらに加え、AFM 技術、超分子、がん研究を融合・発展させ、新学術創成研究機構の下に設置し、新たな学問領域「ナノプローブ生命科学」の創成を目指すナノ生命科学研究所構想が、「平成29年度文部科学省世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI 事業）」に採択されたことから、「年度計画を上回って実施した」と判断する。</li> </ul>
<p>【5-3】 「ミッションの再定義」における重点研究課題を踏まえつつ、多様な基礎研究を充実するため、脳科学、薬物動態学、バイオリファイナリー等の研究分野の強化及び分野融合型研究の拡大等、学長主導による組織的・戦略的な研究プログラム等を展開する。</p>	<p>① 基礎研究の充実を図るため、科研費等の外部資金獲得に向けた支援を組織的に行うとともに、学長主導による戦略的研究推進プログラムを実施する。</p>	III	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部資金の獲得に向け、戦略的研究推進プログラムにおいて、科研費採択支援（14 件）、戦略的創造研究推進事業・革新的先端研究開発支援事業採択支援（3 件）を行うとともに、役員・URA 等による組織的な科研費等の申請書の確認・作成支援等を行った。</li> <li>・「平成 30 年度科研費獲得に向けた対策等について」研究担当理事名で通知し、各部局・系等において科研費獲得対策を策定した。</li> </ul>

- I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標  
 2 研究に関する目標  
 (2) 研究実施体制等に関する目標

中期目標	【6】世界最高水準の研究拠点を目指し、研究実施体制を強化する。
------	---------------------------------

中期計画	29年度 年度計画	評価結果	判断理由
<b>【6-1】</b> 世界トップレベルの研究力の醸成に向け、リサーチプロフェッサー制度や年俸制等の多様な教員人事制度を運用するとともに、若手研究者、女性研究者に対するキャリアシステムの構築、海外協定校等の研究ネットワークを活用した研究力強化等、次世代を担う優秀な研究者の確保・育成に向けた取組を実施する。	① 国内外の優秀な研究者を確保するため、リサーチプロフェッサー制度、年俸制、コンカレント・アポイントメント制度等を運用する。	III	以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・リサーチプロフェッサーを42名配置するとともに、リサーチプロフェッサー制度を見直し、従来の3類型に加えて「拠点型」を新設した。 ・年俸制制度を148名の教員に適用した。 ・コンカレント・アポイントメント制度を活用し、平成30年4月以降4人への教員に適用を決定した。 ・卓越研究員制度を活用し、新たに6名の卓越研究員を採用した。
	② 男女共同参画キャリアデザインラボラトリーを中心に、優秀な女性研究者を確保・育成するための施策を実施する。	III	以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・分野別の女性教員「採用割合」目標値の設定や女性限定公募の導入、コンカレント・アポイントメント制度を活用等、優秀な女性研究者の確保に向けた施策を実施した。 ・「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」事業によるシンポジウム開催及び女性研究者向けの研修実施に加え、女性研究者等研究支援制度による研究支援制度、リカレント教育プログラムの実施等、女性研究者の育成に向けた施策を実施した。
	③ 海外との研究ネットワークを活用し、優秀な若手研究者	III	以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。

	の確保・育成に向けた取組を実施する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラムの実施等により若手研究者の確保に向けた取組を実施した。</li> <li>・戦略的研究推進プログラムにおける、若手研究者海外派遣支援（10 件）を実施するとともに、新学術創成研究機構高等教育部門における若手研究者の海外派遣事業の実施、ストラスブール大学（フランス）及びゲント大学（ベルギー）での合同シンポジウムの開催等、若手研究者の育成に向けた取組を実施した。</li> </ul>
<p>【6-2】 世界トップレベルの研究力の醸成に向け、第2期中期目標期間に創設した新学術創成研究機構や研究域附属研究センター、がん進展制御研究所等における研究体制を組織編成の見直し等により強化するとともに、リサーチアドミニストレーター（URA）の機能別グループ化等により研究支援体制を強化する。 【戦略性が高く意欲的な計画】</p>	<p>① 平成 28 年度に4ユニットを拡充し、16 ユニット体制となった新学術創成研究機構において、分野融合型研究を展開する。また、各研究域附属研究センターにおいては学外委員による外部評価を順次実施するとともに、先進予防医学研究センターを強化する。</p>	IV	<p>以下のことから「年度計画を上回って実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニット・コアを越えた異分野融合研究を見据えた連携を着実に進展させるため、研究部門・研究コア・研究ユニットにおけるミッション・戦略を再策定した上で、異分野融合研究を展開した。</li> <li>・理工研究域バイオ AFM 先端研究センター（7 年目）の外部評価を実施するとともに、世界的研究拠点形成に向けて、同センターを発展的に解消し、ナノ生命科学研究所へ統合することとした。</li> <li>・先進予防医学研究センターを中心とした世界的予防医学研究拠点の形成のため、既に予防医学の基盤的研究を展開している脳・肝インターフェースメディシン研究センターを発展的に解消し、先進予防医学研究センターに統合することで更なる機能強化を図った。</li> <li>・これらに加え、AFM 技術、超分子、がん研究を融合・発展させ、新学術創成研究機構の下に設置し、新たな学問領域「ナノプローブ生命科学」の創成を目指すナノ生命科学研究所構想が、「平成 29 年度文部科学省世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI 事業）」に採択されたことから、「年度計画を上回って実施した」と判断する。</li> </ul>
	<p>② 卓越した研究領域を一層強力に支援するため、先</p>	III	以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。

	端科学・イノベーション推進機構（O-FSI）の組織編成を見直す。		・組織編成を見直し、研究推進グループ、産学官連携・知財推進グループ、特命担当（産学連携）に加え、大学全体のマネジメントに関与する上席URAのポスト新たに設けた。
【6-3】 日本海側に位置する世界に誇るイノベーション拠点として、研究成果の社会実装を目指し、社会・経済的なニーズと本学の研究・技術シーズとのマッチングにより、「自動運転システム」や「健康管理システム」等の技術創出に関する自治体、企業等との産学官連携プロジェクトを展開する。	① 「自動運転システム」や「健康管理システム」等に係る産学官連携プロジェクトを実施する。	Ⅲ	以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・「自動運転システム」について、珠洲市広報誌での特集掲載によるアウトリーチのほか、「奥能登国際芸術祭」での体験試乗・デモ走行及びアンケート評価調査を実施した。 ・「健康管理システム」について、羽咋市・NEC・本学による三者協定を締結し、産学官連携共同研究に着手した。
【6-4】 共同利用・共同研究拠点については、第2期中期目標期間に構築した国内外の研究者との連携・協働体制を国際共同研究の増加により強化し、がんの転移・薬剤耐性機構に関する研究、越境汚染に伴う環境変動に関する研究等、先端的学術研究を展開する。【戦略性が高く意欲的な計画】	① 共同利用・共同研究拠点として、がんの転移・薬剤耐性機構に関する研究、越境汚染に伴う環境変動に関する研究等に係る国際共同研究の増加に向けた取組を推進する。	Ⅲ	以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・共同利用・共同研究拠点として、国際共同研究の増加に向け、国際シンポジウム等を開催した

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標  
 3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

中期目標	【7】 持続可能な社会の構築に向け、「地（知）の拠点大学」として、地域創生の中心となる「ひと」の地域への集積や生涯学習社会の実現に寄与する。
------	--

中期計画	29年度 年度計画	評価結果	判断理由
<p>【7-1】            第2期中期目標期間に展開した里山里海マイスター事業や公開講座等の実績を踏まえ、本学の研究者、研究実績等、多岐にわたる優れた知的資源を活用し、生涯を通じた多様な学習機会を提供する。</p>	<p>①            本学の研究者、研究実績等、多岐にわたる優れた知的資源を活用し、公開講座やミニ講演等の多様な学びを提供する。</p>	III	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。            ・公開講座（31 講座）、ミニ講演（11 回）、まちなかセミナー（1 回）を実施するとともに、金沢大学公開「e」講座を Web 上で公開した。</p>
<p>【7-2】            第2期中期目標期間に開始した COC（Center of Community）事業を更に発展させ、「地（知）の拠点大学」における地方創生事業として、学生のライフキャリアの開発をベースとする新たなインターンシップを実施する等、金沢・加賀・能登において地域思考型教育を展開する。</p>	<p>①            全新入生を対象に地域を志向した科目「地域概論」を実施するとともに、COC プラス事業参加大学を中心に構成された WG での検討結果を踏まえ、県内高等教育機関の学生を対象とした e-learning 教材「地域創生概論」の本格導入等、金沢・加賀・能登において地域思考型教育を展開する。</p>	III	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。            ・「地域概論」を開講し、全学類で本格実施するとともに、MOOC 教材「いしかわの未来可能性（地域創生概論）」を同科目において必修教材として使用し、1 年生 1768 名が受講した。</p>

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

4 その他の目標

(1) グローバル化に関する目標

中期目標	【8】 海外機関との連携実績を生かすとともに、スーパーグローバル大学創成支援事業を活用し、国際競争力の向上に向け、本学のグローバル化を推進する。
------	--

中期計画	29年度 年度計画	評価結果	判断理由
<p>【8-1】</p> <p>英語を中心とした外国語による授業を拡大し、第3期中期目標期間終了時に、全授業科目に占める実施率を、学士課程においては30%程度、大学院課程においては60%程度まで増加させるとともに、学士課程において、英語で行われる授業科目の履修のみで修了できる教育プログラムを複数学類で導入する。 【戦略性が高く意欲的な計画】</p>	<p>①</p> <p>本学のグローバル化の推進に向け、学士課程及び大学院課程において、英語による授業を拡大するとともに、学士課程専門教育において、英語で行われる授業科目のみで構成する教育プログラムを複数導入する。</p>	III	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語による授業について、学士課程においては、GS科目における英語による授業の推進等により、平成28年度6.3%から10.1%に、大学院課程においては、全研究科必修科目として新たに「研究者倫理」を開講したこと等により平成28年度25.0%から33.8%にそれぞれ拡大した。</li> <li>・学士課程専門教育において、英語で行われる授業科目のみで構成する教育プログラムを6プログラム開講した。(人間社会学域国際学類2プログラム、理工学域数物科学類3プログラム、物質化学類1プログラム)</li> </ul>
<p>【8-2】</p> <p>海外派遣・留学を促進するため、短期留学プログラムや海外インターンシップ等の海外派遣プログラムを拡充するとともに、海外拠点等を活用した派遣学生支援等、日本人学生が留学しやすい環境を整備する。 【戦略性が高く意欲的な計画】</p>	<p>①</p> <p>教育目的や学生のニーズに対応する多様な海外派遣プログラムを実施する。また、海外同窓会やコラボラティブ・プロフェッサー等の海外ネットワークを活用し、派遣学生に対する現地情報の提供や滞在支援を行う。</p>	III	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファーストステッププログラム等、教育目的や学生ニーズに対応した71の海外派遣プログラムを実施した(海外派遣者数608名)。</li> <li>・本学留学生同窓会、コラボラティブ・プロフェッサー及び海外事務所による治安や宿泊地等、事前の現地情報提供及び現地案内等、派遣期間中の滞在支援を行った。</li> </ul>
<p>【8-3】</p> <p>海外協定校の拡大、留学生教育プログラムの拡充等、外国人留学生の増加を図るための取組を推進す</p>	<p>①</p> <p>外国人留学生の増加を図るため、海外協定校を拡大するとともに、重点交流協定校等との新たな留学生教育プロ</p>	III	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部局や海外大学からの協定締結希望に対し交流希</li> </ul>

<p>るとともに、学内標識や学生向けポータルサイト、学内通知等の二言語化や交流スペースの拡充等により、国際コミュニティーゾーンとしてのキャンパス機能を強化する。【戦略性が高く意欲的な計画】</p>	<p>グラムを開発する。また、海外拠点、海外ネットワーク等を活用し、本学への留学に向けた情報を発信する。</p>		<p>望分野等のマッチング及び部局における提案書作成の際の先方大学に関する情報収集支援を行い、海外協定校を拡充した。（大学間協定：新規 14 件，更新 2 件，部局間協定：新規 3 件 計 19 件の新規締結・更新）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重点交流協定校からの新規短期留学受入れプログラム「KUMAP」（3月～8月），「KUSDP」（9月～12月）を開発・実施し，それぞれ 8 名，10 名の留学生を受け入れた。</li> <li>海外事務所を活用し，留学説明会等において本学情報を発信するとともに，コラボラティブ・プロフェッサーへの SGU 通信のメール配信を試行し，本学の戦略を踏まえた連携協力の機会増加を図った。</li> <li>国際交流 web サイトに新たな奨学金制度等の情報を掲載し，広く海外に発信した。</li> </ul>
	<p>② 国際コミュニティーゾーンとしてのキャンパス機能の強化に向け、学内標識等の英語化を可能なものから実施するとともに、学内の留学生交流スペース等の活用を促進する。また、複数言語に対応した、新しい学生向けポータルサイトの導入を目指し、試行運用を開始する。</p>	<p>IV</p>	<p>以下のことから「年度計画を上回って実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>角間キャンパス内において 35 箇所の学内標識を英語化するとともに、学内事務文書の英語化について 98 件対応した。</li> <li>中央図書館及び自然科学系図書館に設置されている国際交流スタジオ等において、English Hour! や Japanese Hour! の開催、留学生ラーニングコンシェルジュによる日本人学生と留学生に対する学修支援の実施等、留学生交流スペースの活用を促進した。</li> <li>日本語及び英語の 2 言語に対応した学生ポータルサイトを含む新教務システム（学務情報サービス）を 4 月に試行運用し動作確認、操作練習、データ移行等を行った。</li> <li>これらに加えて、8 月に新教務システムを本格運用し、学生・教員が利用するポータルサイトについて、全て英語化対応を完了したことから、年度計画を上回って実施した。</li> </ul>

<p>【8-4】 全学的な国際通用性の向上を目指し、第2期中期目標期間にタフツ大学との協働により創設した金沢大学スーパーグローバル ELP (English Language Programs) センターにおいて、教職員等を対象とした英語研修を実施する等、グローバル化に対応した教職員の資質能力の向上に係る取組を実施する。</p>	<p>① スーパーグローバル ELP センターを中心に、教職員及び学生向けの英語研修プログラムを実施するとともに、海外留学フェアや海外拠点への教職員の派遣等、グローバル化に対応する能力の向上に向けた取組を検討し、可能なものから実施する。</p>	<p>III</p>	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・スーパーグローバル ELP センターにおいて、教職員及び学生向けの英語力強化プログラムを実施した。(教員 49 名、職員 35 名、学生 27 名) ・海外留学フェア及び海外拠点へ教職員を派遣した。(教員 26 名、職員 24 名)</p>
<p>【8-5】 国際頭脳循環による本学の強み・特色を生かした国際競争力の向上に向け、第2期中期目標期間において展開した学内研究支援プログラムの充実による若手研究者の海外派遣及び海外の大学・研究機関との共同研究の組織的な展開等により、研究ネットワーク形成を推進する。</p>	<p>① 新たな研究ネットワークの形成及び既存の研究ネットワークの強化を図るため、国際共同研究に特化した学内研究支援プログラムを実施する。</p>	<p>III</p>	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・国際共同研究に特化した戦略的研究推進プログラムにより、海外連携支援事業(若手研究者海外派遣支援 10 件、海外研究者招へい支援 3 件)、「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム」等により、若手研究者の海外派遣及び海外からの招へいを行った。</p>



I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標  
 4 その他の目標  
 (2) 附属病院に関する目標

中期目標 【9】 先進的医療を担う人材の育成や臨床研究を推進するとともに、地域の中核病院としての役割を担う。

中期計画	29年度 年度計画	評価結果	判断理由
【9-1】 新たに組織再編する医学系の大学院博士課程におけるレギュラトリーサイエンス、メディカルイノベーションに関する教育等を通じ、先進的医療の開発・推進を担う人材を育成するとともに、金大病院 CPD (Continuing Professional Development) センター等を活用した医師に対する専門教育やリカレント教育の実施等、高度な能力を有する医師を育成するための取組を展開する。	① 先進的医療の開発・推進を担う人材を育成するため、大学院博士課程メディカル・イノベーションコース「医療革新を専門とする医師の養成」を中心として、レギュラトリーサイエンス、メディカル・イノベーションに関する教育を行う。	III	以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・大学院博士課程メディカル・イノベーションコースに6名の学生が新規履修登録を行い、前期にメディカル・イノベーションセミナー、後期にレギュラトリーサイエンスセミナーを開講するとともに、外部講師による特別講義を実施した。
	② 金大病院CPDセンター等を活用した医師・医療従事者の専門教育やリカレント教育を実施する。	III	以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・金大CPDセンターを活用し、バーチャルシミュレータによる手術トレーニングの実施をはじめ、テレビ会議システムを用いた各種研修会やセミナー等を開催し、医師・医療従事者の専門教育及びリカレント教育を実施した。 ・暴言暴力から身を守る技を学ぶ等、病院スタッフとして対応が迫られる状況に備え、外部専門家による講習会を開催した。
【9-2】 橋渡し研究、医薬品・医療機器開発研究等、先進的医療に係る研究を組織的に展開するため、第2期中期目標期間に設置した先端医療開発センターを中心に、有望な研究シーズに対する研究費助成等の研究支援を行う。	① 先端医療開発センターを中心として質の高い臨床研究を支援するため、有望な研究シーズに対する研究費助成を行うとともに、研究助成の選定における評価基準の検証を行う。	III	以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・臨床研究に係る研究助成について公募し、選定の結果、平成29年度は計14件、35,000千円の研究費を配分した。 ・研究助成の選定にあたり、評価基準の検証を行っ

			た。
<p><b>【9-3】</b>  金沢大学附属病院と地域の医療機関との医療情報を共有する等、地域の中核病院として、これまでに構築した地域の診療機関との連携体制を更に強化する。</p>	<p>①  地域連携クリニカルパスの運用拡大に向けた取組を推進するとともに、他医療機関との連携強化に向けた医療情報の共有を推進する。</p>	<p>III</p>	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。  ・地域連携パスの積極的な使用を診療科へ呼びかけるとともに、クリニカルパス大会の開催等により、地域連携クリニカルパス運用の拡大を図った。  ・金沢大学附属病院継続診療システムの改修を行い、他医療機関から要望があった循環器動画及びレポートを公開し、医療情報の開示範囲を拡大する等、他医療機関との連携を強化した。</p>

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標  
 4 その他の目標  
 (3) 附属学校に関する目標

中期目標 【10】 附属学校園と学校教育学類及び教職大学院との協働により，教育研究活動を組織的に推進するとともに，先導的・実験的な教育活動に取り組む。

中期計画	29年度 年度計画	評価結果	判断理由
【10-1】 石川県を中心とする教員養成の中核を担い，先導的な教育モデルを提唱する教育研究機関として，全国的にも希な幼稚園，小中高等学校，特別支援学校の5校園を有するという特色を生かし，先導的な学校実習の場として学校教育学類及び教職大学院における教員養成システムの一翼を担うとともに，本学独自の教育研究 GP 事業を展開する等，大学と附属学校園の協働による先導的・実験的な教育実践研究を展開する。	① 附属学校園と学校教育学類及び教職大学院とが協働し，教育実習及び学校実習を実施する。	III	以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>附属学校園と学校教育学類が協働し，事前・事後指導も含め教育（養護）実習を実施した（計 167 名の実習生を受入れ。）</li> <li>附属学校園と教職大学院が協働し，学校実習を実施し，計 17 名の大学院生が附属学校指導教員及び教職大学院指導教員と密に連携しながら，自身の研究テーマに沿った活動を展開した。</li> </ul>
	② 金沢大学学校教育学類附属学校園連携 GP 事業等により，大学と附属学校園が連携した特色ある教育実践研究を実施する。	III	以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>「金沢大学学校教育学類附属学校園連携 GP 事業」採択研究（9件）を実施した。</li> </ul>
【10-2】 教育モデル校として，第2期中期目標期間において各校園が取り組んだ教育研究活動実績をもとに，幼小連携，中学校における ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）研究，高等学校におけるスーパーグローバルハイスクールカリキュラム研究等，特色ある先導的・実験的な教育活動を展開し，石川県教育委員会との連携により，その成果を地域に還元する。	① 高等学校におけるスーパーグローバルハイスクールカリキュラム研究等，各学校園の特色を生かした先導的・実験的な教育・研究活動を展開するとともに，それらの活動の成果を地域に還元するため，教育研究発表会を開催する。	III	以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>「地域課題研究」発表会や「グローバル提案」等の実施により，高等学校におけるスーパーグローバルハイスクールカリキュラム研究を展開した。</li> <li>附属高校における教育研究発表会「第4回 SGH 研究大会・第27回 高校教育研究協議会」の実施等，各附属学校園において研究発表会等を開催し，教育・研究活動成果の地域還元を図った。</li> </ul>

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標  
 4 その他の目標  
 (4) 大学間連携に関する目標

中期目標	【11】 国立六大学（千葉大学，新潟大学，金沢大学，岡山大学，長崎大学，熊本大学）連携コンソーシアム等の大学間連携により，教育・研究等の機能の強化を図る。
------	---

中期計画	29年度 年度計画	評価結果	判断理由
【11-1】 国立六大学（千葉大学，新潟大学，金沢大学，岡山大学，長崎大学，熊本大学）連携コンソーシアムを基軸として，大学間協働体制を強化し，機能強化に向けた教育・研究・国際連携等の事業を展開する。	① 国立六大学間の連携により，教育・研究・国際等の連携事業を展開する。	III	以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・国立六大学連携コンソーシアムの教育，研究，国際，広報の各連携機構を中心に，それぞれの課題に即した活動を行い，連携関係を深化させた。

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標  
1 組織運営の改善に関する目標

中期目標	【12】 本学の強みや特色を生かし、教育、研究、社会貢献等の機能を最大化できるガバナンス体制を構築する。
------	--

中期計画	29年度 年度計画	評価結果	判断理由
<p>【12-1】 大学改革推進委員会や教員人事戦略委員会の設置等、第2期中期目標期間に行ったガバナンス改革を踏まえ、学長のリーダーシップの下、部局長選考に係る複数候補者推薦制の運用、部局運営に係る目標の設定及び目標達成度に係る部局評価の実施等、大学改革・機能強化に向けたガバナンス強化策を展開する。</p>	<p>① 部局長選考に係る複数候補者推薦制を運用するとともに、部局運営に係る目標の設定及び目標達成度に係る部局評価を実施する。</p>	III	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部局長選考に際し、平成30年3月末をもって部局長の任期が切れる各部局において、複数候補者推薦制により複数の候補者を学長に推薦し、学長が面談の上、候補者を決定した。</li> <li>・学長による部局長ヒアリングを実施した上で法人の方針を反映した平成29年度部局の運営目標を設定した。</li> <li>・各部署長による平成28年度運営目標の達成状況及び部局長業務に係る自己評価を実施した上で学長による評価を実施した。</li> </ul>
<p>【12-2】 本学の強み・特色を生かし研究力を強化するため、第2期中期目標期間における教員人事制度改革により導入した、リサーチプロフェッサー制度や年俸制、コンカレント・アポイントメント制度等の定着を図る等、多様な教員人事制度を運用する。</p>	<p>① 年俸制やコンカレント・アポイントメント制度等の人事制度を適切に運用するとともに、必要に応じて制度の改善を検討する。</p>	IV	<p>以下のことから「年度計画を上回って実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年俸制制度を148名の教員に適用し、「一次評価」、「二次評価」を踏まえ学長が決定した「業績評価」の結果に基づき平成30年1月1日の基本給を改定した。</li> <li>・コンカレント・アポイントメント制度を活用し、平成30年4月以降4人の教員へ適用を決定した。</li> <li>・リサーチプロフェッサーを42名配置した。</li> <li>・卓越研究員制度を活用し、新たに6名の卓越研究員を採用した。</li> <li>・これらに加えて、「平成29年度文部科学省世界</li> </ul>

			トップレベル研究拠点プログラム（WPI 事業）」の採択により、既存の類型に当てはまらない新たなリサーチプロフェッサーの配置を検討し、従来の3類型に加えて「拠点型」を新設したことから、年度計画を上回って実施した。
	② サバティカル研修制度の活用を促し、必要に応じて制度の改善を行う。	III	以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・研修制度の概要や実績について説明したチラシを更新し、web への掲載及び研修成果報告会にて周知し、サバティカル研修の活用を促進した。
【12-3】 教員の資質向上を目的に第1期中期目標期間に導入し、それ以降実施してきた教員評価制度を改め、教員の資質向上を図るだけでなく、評価結果を処遇に反映する新たな教員評価制度を導入し、これを運用する。【戦略性が高く意欲的な計画】	① 教員の資質向上を図るだけでなく、評価結果を処遇に反映する新たな教員評価制度を運用する。	IV	以下のことから「年度計画を上回って実施している」と判断する。 ・評価結果を処遇に反映する新たな教員評価制度について、年俸制適用教員及び評価期間に退職する教員等を除く全教員に対し、「一次評価」、「一次評価の確定評価」及び「二次評価」を実施し、平成30年1月1日付けで昇給等の処遇に反映した。 ・これらに加え、運用にあたり、評価者及び被評価者から広く意見を募集し、課題の抽出及びその改善方策を検討し、全学教員評価委員会により改善を行ったことから、年度計画を上回って実施した。

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標  
2 教育研究組織の見直しに関する目標

中期目標	【13】 本学の強み・特色を生かした教育研究組織を編成する。
------	--------------------------------

中期計画	29年度 年度計画	評価結果	判断理由
<p>【13-1】 ミッションの再定義等を踏まえ、本学の強み・特色を生かし機能強化を図るため、先進予防医学に係る千葉大学・長崎大学との共同大学院や新興分野・分野融合型研究等を基にした北陸先端科学技術大学院大学との分野融合型共同大学院、石川県の教員養成に係るニーズに対応し、修了者の85%の教員就職率確保を目指した教職大学院の創設等、教育研究組織の見直しを行う。【戦略性が高く意欲的な計画】</p>	<p>① 人間社会学域及び理工学域における学類やコース等の再編に向けた準備や、新興分野・分野融合型研究等を基にした北陸先端科学技術大学院大学との共同大学院の設置に向けた準備を行う。</p>	III	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年4月の人間社会学域におけるコースの再編に向け、文部科学省へ見直し後の定員規模をもって平成30年度教育組織の改組に係る概算要求を行い、了承された。</li> <li>・平成30年4月の理工学域における学類やコースの再編に向け、文部科学省へ設置計画書等を提出し、平成29年7月をもって設置手続きが完了した。</li> <li>・新興分野・分野融合型研究等を基にした北陸先端科学技術大学院大学との共同大学院の設置に向け、文部科学省へ設置計画書等を提出し、平成29年8月をもって設置手続きが完了した。</li> </ul>

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標  
3 事務等の効率化・合理化に関する目標

中期目標	【14】 効果的・機動的な事務運営体制を確立する。
------	---------------------------

中期計画	29年度 年度計画	評価結果	判断理由
<p>【14-1】 効果的な事務運営を確立するため、第2期中期目標期間において取り組んできた業務の効率化・合理化の成果を踏まえ、業務の外部委託を推進するとともに、インターンシップ等に係る北陸先端科学技術大学院大学との事務連携体制の構築等、国立大学法人間の連携を推進する。</p>	<p>① 業務の外部委託についての検討及びインターンシップ等に係る北陸先端科学技術大学院大学との事務連携体制構築に向けた検討を進める。</p>	IV	<p>以下のことから「年度計画を上回って実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の外部委託に関する調査結果等を踏まえ、効率的・効果的な外部委託の在り方について検討するとともに、本学の屋外運動施設の整備を民間企業に委託した。</li> <li>・インターンシップ等に係る北陸先端科学技術大学院大学との事務連携体制構築に向け、両大学の事務局長等を構成員とする事務局調整連絡会議において、検討を行った。</li> <li>・事務職員の研修等における両大学の事務連携協力体制について検討するとともに、採用・給与・キャリア開発・福利厚生など5項目を設け、具体的な検討を進めた。</li> <li>・これらの取組に加え、共同専攻におけるインターンシップを含めた事務を一体的に展開する「コーディネートセンター」の設置を連携協定書の中に盛り込み、平成30年3月に連携協定を締結したことから、年度計画を上回って実施した。</li> </ul>
<p>【14-2】 本学における機能強化戦略に応じ、大学運営の専門的職能集団としての機能を効果的に発揮するため、不断に事務組織とその配置を見直し、戦略的な事務組織の改編を行う。</p>	<p>① 事務組織の編成や人員配置について検証し、必要に応じて事務組織の改編を実施する。</p>	III	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各部・室に対して組織・定員に係る意向調査やヒアリングを実施した上で見直し案を検討し、平成30年度の組織編成及び人員配置を決定した。</li> </ul>



III 財務内容の改善に関する目標  
1 外部研究資金，寄附金その他の自己収入の増加に関する目標

中期目標	【15】多様な財源を確保し，自己収入の増加に努める。
------	----------------------------

中期計画	29年度 年度計画	評価結果	判断理由
<p>【15-1】 競争的外部資金等の獲得金額について，第2期中期目標期間終了時に比べ，第3期中期目標期間終了時までには20%程度の増加を目指し，世界トップレベルの研究力の醸成に向けた取組を実施するとともに，第2期中期目標期間に創設した先端科学・イノベーション推進機構を中心に，URA等による組織的な外部資金獲得支援を行う。【戦略性が高く意欲的な計画】</p>	<p>① 科研費を中心とした競争的外部資金等の増加に向け，戦略的研究推進プログラム等を組織的に実施するとともに，URAによる外部資金の獲得支援を行う。</p>	III	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略的研究推進プログラムにおいて，科研費採択支援（14件），戦略的創造研究推進事業・革新的先端研究開発支援事業採択支援（3件）を行った。</li> <li>・URAによる科研費等の申請書の確認・作成支援等を行い，外部資金獲得を支援した。</li> <li>・「平成30年度科研費獲得に向けた対策等について」（研究担当理事名通知）に基づき，各部局・系等において科研費獲得対策を策定した。</li> </ul>
<p>【15-2】 第1期中期目標期間に創設した金沢大学基金を充実させるため，時機に応じて用途を特化したキャンペーンを実施する等，効果的な募金活動を展開する。</p>	<p>① 「スーパーグローバル大学創成留学生支援キャンペーン」や「修学支援基金」等の募金活動を展開する。</p>	III	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種同窓会総会に学長・役員が出席し，「スーパーグローバル大学創成留学支援キャンペーン」に修学支援基金を加えた寄附依頼のパフレットや金沢大学カード申込書を配布して寄附・カード加入の呼びかけを行った。</li> <li>・附属高校等の協力事業を継続して実施した。</li> </ul>

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標  
2 経費の抑制に関する目標

中期目標	【16】経費の抑制を推進する。
------	-----------------

中期計画	29年度 年度計画	評価結果	判断理由
<p>【16-1】 第2期中期目標期間に導入したタブレット型 PC によるペーパーレス会議等，同期間の経費抑制効果を踏まえ，業務手法や事務手続きの見直し等，更なる業務の効率化等を行い，経費を抑制する。</p>	<p>① 契約方法の見直しによる契約価格の低廉化を推進する等，業務の効率化を図り，経費抑制に取り組む。</p>	Ⅲ	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 競り下げ方式の本格導入に向け検討を行い，「国立大学法人金沢大学における一般競争入札の競り下げ方式に係る取扱要領」を制定した。（平成30年4月1日施行）</li> <li>・ 医薬品等における単価契約の品目数を拡大し業務量を削減するとともに，スケールメリットを活かした価格交渉により，経費抑制につなげた。</li> </ul>

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標  
3 資産の運用管理の改善に関する目標

中期目標	【17】資産の効率的な運用を推進する。
------	---------------------

中期計画	29年度 年度計画	評価結果	判断理由
<p>【17-1】 第2期中期目標期間において実施した資金運用の成果をもとに、更なる効率的な資金運用を行うため、毎年度策定する資金運用年度計画に基づき適切に運用する。</p>	<p>① 資金運用年度計画を作成し、適切に資金を運用する。</p>	Ⅲ	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・資金運用年度計画を作成し、金融商品は原則譲渡性預金とした短期運用の実施のほか、10年ラダー型運用を実施し地方債の購入をする等、適切な資金運用を実施した。</p>
<p>【17-2】 保有施設の更なる有効活用を図るため、教育研究組織の改編等に応じ、既存施設の利活用に係る再点検を行うとともに、同点検結果に基づく施設活用方策を実施する等、適切なスペースマネジメントを行う。</p>	<p>① 各部署の施設使用計画に基づく使用状況を点検し、施設の有効活用を推進する。</p>	Ⅲ	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・各部署から平成29年度施設等使用計画書の提出を受け、施設利用状況の点検を実施したほか、角間南地区における施設活用方策の検討等を行い、「自然科学棟における新規スペース確保プラン」に基づく施設整備を実施した。</p>

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標  
 1 評価の充実に関する目標

中期目標	【18】 教育研究の質を保証するとともに適切な大学運営を行うため、自己点検・評価を充実する。
------	--

中期計画	29年度 年度計画	評価結果	判断理由
<p>【18-1】            教育研究の質保証及び適切な大学運営を行うために第2期中期目標期間に構築した自己点検評価を中心とするPDCAサイクルをより効果的に機能させるため、本学の諸活動に関する自己点検・評価について、実施方法等を不断に見直すことにより、効果的・効率的に実施する。</p>	<p>①            平成28年度に見直した実施方法等に基づき、大学の基盤的な指標や本学の特色ある取組に係る指標を評価項目とした自己点検・評価を実施する。</p>	III	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度に見直した自己点検評価項目・評価基準に基づき、自己点検評価を実施し、自己点検評価書として公表するとともに、評価基準を満たしていない部局等に対し、当該部局等で立案した改善計画に基づく取組を促す等、PDCAサイクルの更なる機能向上を図った。</li> </ul>

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標  
 2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

中期 目標	【19】 情報提供の基本理念や広報戦略に基づき、大学情報を積極的に発信する。
----------	--

中期計画	29年度 年度計画	評価結果	判断理由
<p>【19-1】            Web サイト、SNS、広報誌等、対象や目的等に応じた効果的な広報手段により、本学における人材育成と研究拠点形成に向けた取組等を広く社会に発信する。</p>	<p>①            人材育成と研究拠点形成等に係る取組について、Web サイト、SNS 等により広く情報を発信する。</p>	III	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人材育成と研究拠点形成等に係る取組の情報について、海外へ本学の研究情報を発信するため、研究成果を英語化し、海外の報道機関向けのプレスリリースサービスを利用して、16 件のリリースを行うとともに、本学 Web サイト上の「ニュース」等へ 407 件、SNS (Facebook) へ 415 件の記事を掲載する等、広く情報を発信した。</li> </ul>

V その他業務運営に関する重要目標  
1 施設設備の整備・活用等に関する目標

中期目標	【20】 グローバル化に対応した教育研究環境を整備する。
------	------------------------------

中期計画	29年度 年度計画	評価結果	判断理由
<p>【20-1】 本学が独自に策定したキャンパスマスタープラン等に基づき、国の財政措置の状況も勘案しつつ、適切かつ戦略的な施設マネジメントにより、PFI事業を着実に実施するとともに、第2期中期目標期間に整備した日本人学生・留学生宿舍の拡充をはじめとするグローバル化に対応した良好な教育研究環境を整備する。</p>	<p>① PFI事業として、附属図書館等棟施設整備事業（角間Ⅱ）及び総合研究棟改修施設整備等事業（宝町）における維持管理・運営を確実に推進する。</p>	Ⅲ	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PFI事業である附属図書館等棟施設整備事業（角間Ⅱ）及び総合研究棟改修施設整備等事業（宝町）について、PFI事業者から毎月提出されるモニタリング報告を確認し、維持管理・運営を確実に推進した。</li> </ul>
	<p>② キャンパスマスタープランに基づき、適切かつ戦略的な施設マネジメントを実施する。 また、日本人学生・留学生宿舍について、居住状況等を検証する。</p>	Ⅲ	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各部署から平成29年度施設等使用計画書の提出を受け、施設利用状況の点検を実施したほか、角間南地区における施設利活用方策の検討等を行い、「自然科学棟における新規スペース確保プラン」に基づく施設整備を実施した。</li> <li>・日本人学生・留学生宿舍（混在型）の入居者に満足度調査を実施し、その結果を基に当該施設の居住状況等について検証した。</li> </ul>
<p>【20-2】 大型汎用研究設備の共用を促進するため、第2期中期目標期間に整備した研究設備の共用管理を行う施設共同利用推進総合システムを運用する。</p>	<p>① 施設共同利用推進総合システムにおける登録設備の利用状況の分析を踏まえ、改善の方策について検討する。</p>	Ⅳ	<p>以下のことから「年度計画を上回って実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機器所有者及び利用者へのヒアリングや他大学への調査を実施し、設備共同利用推進総合システムをリプレースし予約から課金まで可能となる新共用システムを構築した。</li> <li>・これらに加えて、設備共同利用推進総合システム</li> </ul>

			設備利用料算定要領を策定するとともに、平成30年度本格運用に向けて2月から新システムの試験運用を開始したことから、年度計画を上回って実施した。
--	--	--	---

V その他業務運営に関する重要目標  
 2 安全管理に関する目標

中期目標	【21】教育・研究の場にふさわしい、安全で快適な修学・就労環境を提供する。
------	---------------------------------------

中期計画	29年度 年度計画	評価結果	判断理由
<b>【21-1】</b> 労働安全衛生法や化学物質排出把握管理促進法等の関係法規に従い、第2期中期目標期間に引き続き、安全衛生マネジメント委員会等を中心に、安全管理・健康管理に関し、組織的な対応を行う。	① 労働安全衛生法等に基づき、安全衛生マネジメント委員会を中心に、作業環境測定及び各事業場における職場巡視等、安全管理・健康管理に係る取組を実施する。	III	以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・安全衛生マネジメント委員会を中心に、作業環境測定及び各事業場における職場巡視を実施するとともに、安全衛生委員会の開催等、安全管理・健康管理に係る取組を実施した。



V その他業務運営に関する重要目標  
3 法令遵守等に関する目標

中期目標	【22】 研究不正の防止を含め、コンプライアンスを徹底し、適正な法人運営を推進する。
------	--

中期計画	29年度 年度計画	評価結果	判断理由
<p>【22-1】 第2期中期目標期間において整備した研究活動における不正を未然に防止する体制により、研究費の適正使用や不正行為防止に係る周知徹底、誓約書の提出義務化等の取組を更に強化する。</p>	<p>① 研究活動における不正を未然に防止するため、新任教員説明会、科学研究費助成事業説明会等において、研究費の適正使用や不正行為防止に係る周知徹底を図る。</p>	III	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・平成29年4月の新任教員説明会、平成29年6月の科研費獲得に向けた学内支援制度等説明会等において、研究費の適正使用や不正行為防止に係る周知徹底を図った。</p>
<p>【22-2】 第2期中期目標期間において整備したコンプライアンス推進体制により、情報セキュリティ、研究倫理などの事項に応じ、コンプライアンス研修の体系化・階層化を図る等、研修内容を充実するとともに、同期間において導入した本学的意思決定プロセスに係る監事による調査等、監査機能を強化する。</p>	<p>① コンプライアンス研修について、理解度等に関するアンケート結果を踏まえ、内容の充実を図る。</p>	III	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・個人情報、情報セキュリティ、研究費等の適正な執行等、コンプライアンス研修を個別に実施した。 ・個人情報、情報セキュリティについてe-learningによる研修への変更や理解度調査を踏まえた資料等の充実を図った。 ・研究費等の適正な執行について、研修会開催日を工夫するとともに、動画資料を新規作成する等、研修内容の充実を図った。</p>
	<p>② 内部監査結果に対する改善状況の事後調査を実施するとともに、意思決定プロセスに係る監事による調査体制を</p>	III	<p>以下のことから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・平成29年7月から平成30年1月までに実施した</p>

	確保する。		内部監査において、過年度の内部監査結果に基づく改善状況の事後調査を実施した。 ・監事が年間を通して、学内主要会議等へ出席することにより、意思決定プロセスの調査体制を確保し、本学における重要事項の意思決定の過程及び職務の執行状況の把握に努めた。
--	-------	--	--